明日の京都　文化遺産プラットフォーム

京都　神と仏の歳時記

第三回

御火焚

十一月は御火焚の月。
オヒタキ、オホタケ、オホタキ、オシタキ・・・
呼び方は色々だ。神社仏閣だけでなく、
鍛冶屋や風呂屋、火を使う商家など、
京都のそこかしこで煙があがる。
江戸時代、全国に広がった行事が
京都だけで続いているのはなぜか。
宮中の祭に、御火焚の由来を探った。

写真・文　秋尾沙戸子

平成三十年十一月十八日　上御霊神社火焚祭

明日の京都
文化遺産プラットフォーム

紅葉の美しい季節に斎行される貴船神社の火焚祭は、水の供給を司る龍神が、燃え盛る火から誕生したという故事を再現している。

現在も御火焚がさかんなのは京都だけ

御火焚（オホタキ）や霜うつくしき京の町

蕪村がこの句を詠んだのは、陰暦の霜月。京の町にも霜が降り、その白さと炎の赤さの対比が視覚的にも美しかったに違いない。

御火焚は、火を焚いて日常の穢（けが）れや罪を祓い、心身を清める行事として、江戸時代、全国に浸透した。京都では秋の風物詩のように現在も続いている。人々が火の霊力を信じ、感謝の念を抱いているからであろう。そこには、火を焚いて願いをこめる密教の護摩や、火と水で祓われるとする神道の考えが影響している。

洛北にある貴船神社の火焚祭は十一月七日。水の供給を司る貴船大神は、実は燃え盛る炎から出現したという故事があり、火焚祭は、それを再現して、大神の気力を蘇らせる常若の神事でもある。

朝十一時。神饌を供し、巫女が神楽を奉じる。その後、献火の儀では、神前で木と木をすり合わせて火を起こす。火鑽器（ひきりき）と轆轤鑽（ろくろひきり）で切り出された齋火（いみび）により、境内に火焚串を積み上げた御火焚竈（おひたきかまど）が焚き上げられる。白い煙が紅葉に映え、やがて赤い炎が龍のごとく昇っていく。その間、大祓詞（おおはらえのことば）を参拝者も唱和し、高井和大宮司の神楽鈴を受けて祓われる。

翌日は伏見稲荷神社の火焚祭。全国から送られてきた十万本の火焚串が焚かれる。稲荷は鍛冶屋の守護神で、ふいご祭とともに広まった。飲食店や風呂屋など大火を用いる商家も、御火焚に熱心だった。

広隆寺では山伏により護摩が焚かれる

神前で木と木を擦り合わせ、齋火を起こす

貴船神社では火焚串が円柱形に組まれる

広隆寺では聖徳太子の月命日十一月二十二日に、竈の神を祀る護浄院（清荒神（きよしこうじん））では二十八日に、山伏の護摩による火焚祭が斎行される。

上御霊神社では火焚串を井桁に組んで火焚祭を行う。続く湯立神楽では、巫女が煮えたぎる湯を笹につけて散らし、邪気を祓う。

宮中の新嘗祭と道饗祭と鎮火祭が由来

京都を離れなかった公家で、歌道を伝える冷泉家の御火焚（オシタケ）は、神迎えだ。神無月に出雲に集まられた神々を、霜月になって再び迎えるために火を焚くのである。

冷泉家に縁のある神々、稲荷大明神、新玉津島神社（和歌の神さま）、上御霊神社、大将軍神社の四回、神社で斎行される火焚祭と同じ日に、自宅の上（かみ）の間で行う。銅の火鉢の中に小さな割木を井桁に組み上げておき、夕方、火打ち石で火をおこし、硫黄にとって和ろうそくに移して点火。火が消えるまで家族全員が見守った。

上御霊神社は冷泉家の氏神である。早良（さわら）親王の御霊を慰めるため桓武天皇によって創建されたこの神社は天皇家との縁は深く、明治維新後は、東京に移った旧華族の神々を境内で祀っている。江戸時代まで御所周辺に居を構えていた公家が屋敷内に祀っていた神々のことである。

火焚祭は十一月十八日。表紙写真のように、参拝者の願いが記された火焚串を焚き上げ、同時に湯立（ゆだて）神楽も行われる。境内に大きな釜を置いて湯を煮立て、塩と米と神酒が注がれる。その湯を笹につけて勢いよく散らして、邪気を祓うというものだ。巫女が神楽鈴で舞うと、火の神、水の神が降臨。参拝者たちは、その湯しぶきを浴びて、無病息災を願う。

お火焚き饅頭には火焔宝珠の焼き印
（写真提供：鍵善良房）

御火焚のルーツを色々な文書で読み解くと、宮中の内侍所（ないしどころ）の御神楽（みかぐら）、鎮火祭、道饗祭（みちあえのまつり）が合わさって庶民に広がった可能性が高いと小栗栖元徳宮司はいう。

宮中の神楽は、天皇が臨席して内侍所の庭前で夜、奉納される。社前に積み上げられた井桁の薪の中央に笹や竹を入れ，これに新穀の神饌、神酒（みき）を供え、神楽を奏でる。祝詞が終わると斎火を笹に移し、神酒を注いで爆竹三声で式を閉じる。

道饗祭は、平安京の四隅に神を祀り、魑魅（ちみ）魍魎（もうりょう）を城外へ駆逐する祭である。京都に入って来ないでと、蜜柑などで饗応し、火を焚いて駆逐する。鎮火祭もまた、火を四隅に焚くことで、火災を防ぎ、春を前に太陽に火を送るものである。農作物に感謝を捧げる新嘗祭と、これらが合わさって波及し、現在の御火焚につながったと考えられる。

冷泉家で行われてきた「オシタケ」
（撮影：中川邦昭）

あなたは一〇〇年先の京都の姿を想像できますか？

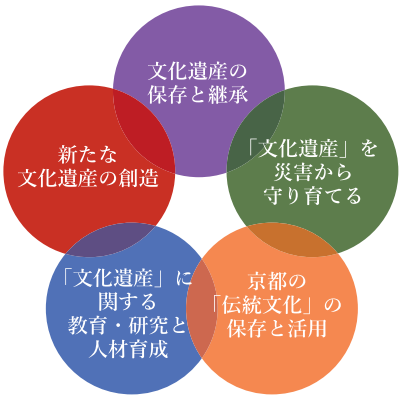
「明日の京都 文化遺産プラットフォーム」は、一〇〇年先に思いを巡らせ、京都の文化遺産を守り育み、創造することを目指しています。

いま世界中から人びとが京都に押し寄せてくるのはなぜか。平安遷都から千二百年余。先達が守ってきた歴史と文化が、そこに存在しているからです。昭和の戦火を免れ、神社仏閣も城も京町家も燃え尽くされなかったのは、実に幸運なことでした。しかしながら、開発の波や昨今の自然災害を受け、これらを守り通すことは容易なことではありません。

当団体の趣旨は、古都京都の文化遺産を毀損することなく後世に継承すること、「文化遺産」に現代的な課題に応える価値を見出し、未来に向けてその存在意義を高めていくこと、一〇〇年先を見据え、新たに「未来の文化遺産」を創造することにあります。

趣旨に賛同してくれているのは、ユネスコ前会長、伝統芸能の家元たち、京都仏教会、京都神社庁、代々続く暖簾や家を守り継ぐ人々、作家、大学関係者、京都府、京都市などなど。京都のことを心から愛し、京都の未来を心から案じている人々が、立場を超え、お互いを尊重しつつ、多様性に富み、複眼的な意見を交わしながら運営しています。

当団体は、５つの事業領域（①新たな文化遺産の創造、②文化遺産の保存と公開、③京都の「伝統文化」の保存と活用、④文化遺産を災害から守り育てる⑤文化遺産に関する教育・研究）に沿って、活動しています（図参照）。



明日の京都ＨＰ

誇るべき事業のひとつは、世界遺産「古都京都の文化財」に登録される社寺城が集い、景観や防災などについて検討するネットワーク会議を開催。同じ悩みや問題を抱えている文化財所有者をつなげ、一同に会して話し合う場を提供していることでしょう。また、そうした文化財所有者が課題を一般市民と共有する場として「明日の京都講座」も主催。昨年度は旧嵯峨御所大本山大覚寺で開かれました。

未来を担う次世代へ継承すべく、大学とも連携。文化遺産を学生の学びの場として開いてもらうよう、寺社に協力を促しています。また、小学生には、百人一首とお茶会を体験学習する場も提供しています。

中核事業として毎年、フォーラムを開催。一〇〇年後を見据えた展望と方策を考え、提言しています。昨年度は、「水のみやこ京都の明日」をテーマに、京都にとって水がいかに重要なものであったかを歴史的に振り返り、防災の観点からも京都の水環境をより豊かなものにするための将来的な方策を、御所水道や本願寺水道の復元を含め、多角的な視点から考察しました。

また、無形遺産シンポジウム「吉田孝次郎の世界」では、北観音山の六角町で生まれて祇園祭山鉾風流の空気を吸って育ち、山鉾連合会会長として多くの困難な局面を打開してきた吉田孝次郎氏の人生を通して、戦後七十年余の山鉾町の変遷とその魅力を学び、京都の伝統・無形文化の保存をめぐる今後の課題に迫りました。

根底にあるのは、文化遺産への敬意と先人への感謝の想い。全ての人々が日々の暮らしの中で京都の歴史の重さを感じ、それをかけがえの無いものとして捉えられることを当団体は目指しているのです。

明日の京都
文化遺産プラットフォーム

今年度の一般公開事業

◆緊急フォーラム「博物館は生きている」
令和元年八月一日　十三時半
◆フォーラム「平安王朝文化と明日の京都」
令和元年十月十四日　十四時
◆明日の京都講座「西本願寺」
令和二年三月二十三日月曜日十三時
◆無形文化遺産シンポジウム
「京都の底ぢから～伝統と先端～」
令和二年三月七日土曜日十三時半

平安京羅城門復元模型前に駒札を設置

平安京の表玄関「羅城門」。その十分の一模型が京都駅の新しい名所となっています。宮大工をはじめ、京都職人による技術の粋を集めて製作された羅城門復元模型を、平成二十八年、北口広場に展示。昨年、駒札が設置されました。ぜひお立ち寄り下さい。

【お願い】

平安京羅城門復元模型の維持管理にご支援をお願いしております。詳細は「明日の京都ＨＰ」にて。http://tomorrows-kyoto.jp/（明日京／検索）

■平安京羅城門復元模型が京都駅北口広場東に展示されています。ぜひお立ち寄りください

■令和元年十月十四日発行
■発行　明日の京都 文化遺産プラットフォーム事務局
〒604-8520
京都市中京区西ノ京朱雀町一番地
（立命館大学 社会連携課内）
TEL 075-813-8166
FAX 075-813-8167